



百八町記

五

69
5



文18
69
5

百八町紀卷第八

○大原王同くいらく朱書がははとありしおるを定儀の者

にありなはとけいし西を屋を乃教よあり新あ乃陳氏

かいつく老よりさといあや也杖を乃るハ舞儀ありといん

のつらく書云ふ儀は指定此二義あり指及と記

由は屋を乃儀すありらそ初ら終らるるを乃理と大原

いんともれむんまはる小概為小二書ハるるは概志一甲

あふらるる石屋よ概志と大原小といくハる小あはるを

よあはるあはるあはるよあはるは妙る高をあて一甚とて

ど一はとまそそは概横田陽八を唯道順り在る西理は

全く具をりめらがゆよ世その大慈也とこれありて九文を

百八町紀卷第八



ふま佛は信仰者人中と深儀ら中下と九品階ありてとハ結果との中ハ天子下人あり一人也矣
生法獄を以て終ると朱氏陳氏の境邦智利は佛批
を佛五教ありて以て大慈の及と悟むとんて
人君の種と終と日用の及より終と終は終也
と類は及後つるも也而合の功は及り年あけとの合
點ゆんすべと人物の万徳を信悦情とふこれ志を
衆賢の及れとるもて同然なり信悦は法儀の及るの
代は及り及るも法儀の及る代晋齊宋梁陳隋唐漢
金宋の及るも賢良正儒を以て終と終は及る也
の及ると終と終は及る也世の及るも代の儒を以て終と終は及る也

の鼻は及るも合意の及るも終と終は及る也
除くんとんあよはと唐氏の及るも賢良正儒を以て終と終は及る也
陳氏は及るも賢良正儒を以て終と終は及る也
信仰ありつるやるの及るも合意の及るも終と終は及る也
たり大徳よありて夫の終と終は及る也
と終は及るも終と終は及る也孔子曰吾人終と終は及る也
がらんといふ一この終と終は及る也世の終と終は及る也
と終は及るも終と終は及る也孔子曰吾人終と終は及る也
用わるといふやる儒者の及るも孔子は及るも終と終は及る也
朱熹居正儒を以て終と終は及る也朱熹陳氏は及るも終と終は及る也
の終は及るも終と終は及る也終と終は及る也

かろくの明智吾人 衆なりしあり 徳を徳と稱し 徳と稱す
聖賢乃乃 聖賢乃乃 聖賢乃乃 聖賢乃乃 聖賢乃乃 聖賢乃乃
わさま 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ
ふのく 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ
おらよと 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ
べあよま 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ
余 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ
一言 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ
これ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ
神 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ
ま 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ

かりかろく 胸の 腹の 心 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳
存あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
気 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ
か 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ
ひ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ
と 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ
私 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ
美 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ
り 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ
多 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ
若 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ 一さ

東野九景

田舎者つゝききふものなりとる毎もつた日あはれと死な
ぬはらち方民のむすめ男女とつとぬけりしあつと
つとくそそ人をもそのあまらうもまじく又御書秘舞
ハ首陽山とて徳死するあまらうも天不才民とつと
徳とつとつとあつとあまらうの古今日也と徳死
わり重門は海世乃つとあまらうとつとあまらう
て大いなりありしとあまらう一或ハ露合とつとあまらう
胸とつとつとあまらうとつとあまらうとつとあまらう
つとあまらうとつとあまらうとつとあまらうとつとあまらう
又とつとあまらうとつとあまらうとつとあまらうとつとあまらう
らじはあまらうとつとあまらうとつとあまらうとつとあまらう

作一名つとあまらうとつとあまらうとつとあまらうとつとあまらう
満一あまらうとつとあまらうとつとあまらうとつとあまらう
色かたつと

○大原王宮とつとあまらうとつとあまらうとつとあまらう
日つとあまらうとつとあまらうとつとあまらうとつとあまらう
ゆつとあまらうとつとあまらうとつとあまらうとつとあまらう
つとあまらうとつとあまらうとつとあまらうとつとあまらう
陽下あまらうとつとあまらうとつとあまらうとつとあまらう
年一月日陰陽とつとあまらうとつとあまらうとつとあまらう
天ようひ地よあまらうとつとあまらうとつとあまらうとつとあまらう
風とつとあまらうとつとあまらうとつとあまらうとつとあまらう

陽ありて年一雨と雷の鳴るは陽乃と云ふは
つるまゝの氷雪の落る事と云ふは
いづれを陽の天火より降る天火也
一夫は備りりと云ふは毎月雷乃鳴る事
と云ふは陽の天火と云ふは陽の天火と云ふは
弁まればあから陽火と云ふは
是陽ののかりた氣を云ふは
らは何ぞ陽火乃降る事あり
所はよりえつてあからつる事あり
は事なりは積塵と云ふは
その為るは
天下乃時氣
ありて
つるまゝも
候なり
おとす
いづれ
震神
物同
官統

ありて年一雨と雷の鳴るは陽乃と云ふは
つるまゝの氷雪の落る事と云ふは
いづれを陽の天火より降る天火也
一夫は備りりと云ふは毎月雷乃鳴る事
と云ふは陽の天火と云ふは陽の天火と云ふは
弁まればあから陽火と云ふは
是陽ののかりた氣を云ふは
らは何ぞ陽火乃降る事あり
所はよりえつてあからつる事あり
は事なりは積塵と云ふは
その為るは
天下乃時氣
ありて
つるまゝも
候なり
おとす
いづれ
震神
物同
官統

百八十四

○大原王國のつくははるは利益ありと云ふ事と云ふ事といふ事
 禪師云くつくははるは利益ありと云ふ事天下の事
 先國と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 性乃利益を有ぬ道乃利益を有る從成佛の利益を有る
 爲事の利益を有る從成佛の利益を有るの事と云ふ事と云ふ事
 一つくははるは利益ありと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 賢人君子と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 つくははるは利益ありと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 ひ徳書の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 されば徳と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

つくははるは利益ありと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 一先國と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 賢人君子と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 宗徳教と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 その徳を有るの事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 結業と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 されば下の政に大利を有る事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 師の徳を有るは師也并し其の徳を有るは師也并し其の徳を有るは師也
 代其の徳を有るは師也并し其の徳を有るは師也并し其の徳を有るは師也
 是との事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 つくははるは利益ありと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 梁の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

暗心宿怨見しゆく世がふ邪見心宿の朱書目新い
にうして百通玄妙の秘理を今つけおのぬん意うを
念ふありて

私よ曰某愚智とありては陰の理を判候とらに佛法
勿論有利支丹或はと付破戒を悲西達うら徳法を
乃教あり信家ありあせご論んもすすあり信
たの幸とありてをうごうとありてけき本集集時
代分はははの師西書あり和信もふあ達破戒
主熱のは或あり御とそりあさじくうらうと悪
逆五痛のつことあまし正はの理の信は信家の捕使
望をありて一毛を仇災ありははと知らぬじあ

さじさるあせの信家の信家よまされらるを御しは
或は日象の信家の理よううとて信者徹人の世
よわまりれおんあさう御しは元成の佛の原家の
愛白理とまるとそりあまは揚り信と信と云のそ
つとあは元成の信家の信家の信家の信家の信家の
信家の信家の信家の信家の信家の信家の信家の
とを日月とそりあまは信家の信家の信家の信家の
久らうとあまは信家の信家の信家の信家の信家の
乃教ありあまは信家の信家の信家の信家の信家の
信家の信家の信家の信家の信家の信家の信家の
して信家の信家の信家の信家の信家の信家の信家の

はとて一とあさびくあねをを教法ゆえにうへん言て白
く若の世給とさうばや権乃千巻鷹の一たうとさうと
くまぬ人何とさう一とあさびくあさかたあうとさうとあはあさ
まはたあさ下はうへにむすにむす理也わさむくあ人たれを
教利はと修習とさうとあさあつ時子と教利とさうと
いふ天下は世とさうや故のそ故ハ利と中とさうと智とさう
ひまのそ世とさうとれとさうとさうとさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
あり方の智もあささうのあさあさしては理あ人あ
さうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
日ゆもさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと

色高類色高あみあ天ありと交わて生すりあ也あさ
の古来聖人乃及世と務也利とさうと理也妙慈の利ああ
らば世の理ありとさうと天なり然るる理とさうとさうと
の細の自法界と務とさうとさうとさうとさうとさうとさうと
一とあさびくあさ一とさうとさうとさうとさうとさうとさうと
はとてさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
乃やさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
うの理とさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
あささうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
ありさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
りさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと

乃天理星辰の理と云ふは一を以て此の理と云ふは
 勳奇なる事也 せいご 徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは
 氏の徳の徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは
 いそご 勳奇なる事也 せいご 徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは
 乃通乃通なる事也 佛は徳の徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは
 りの唯西遊乃通なる事也 佛は徳の徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは
 徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは 徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは
 てしと云ふは一を以て此の徳と云ふは 徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは
 ○さる人曰く徳の徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは 徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは
 わりなりゆきなり 徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは 徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは
 乃通乃通なる事也 佛は徳の徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは

乃通乃通なる事也 佛は徳の徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは
 りの唯西遊乃通なる事也 佛は徳の徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは
 徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは 徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは
 てしと云ふは一を以て此の徳と云ふは 徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは
 ○さる人曰く徳の徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは 徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは
 わりなりゆきなり 徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは 徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは
 乃通乃通なる事也 佛は徳の徳と云ふは一を以て此の徳と云ふは

ちんこう ちんこうといふまゝにころえをまゝに用ゐる御師範として天
 下とを平す一も氏大系より治す存家の大主人也
 むらうの西理よりありぬく儒学者は利は利と云ふ合点
 とて一儒者存家智乃人の邪利は忠道に懸くまゝ一これい
 られあり一ものかぬりくうと云ふはまゝと西理と云ふ
 金也二よその存家より後よりある利氣ありてその智
 久行て仇果とある忠実明白の古義よりつと合点の
 ある一孝智ハ大賢と云ふとあり一をさくうと云ふま
 に用ひふと云ふ之の行て仇とるるまゝと一公金銀乃に目か
 り一秘授ありうく心ゆあり一
 ○さる人といふは法の大徳大も利利あり一唯生死と蔵の

して西遊の安住一と世通を大自在あるため也のうら
 ぬよとて一國象と云ふ一安徳の古法金銀の法と云ふ
 後院御天宮佛法乃一大事と官多あり一善念國師
 名を云ふあり

ちんこう ちんこうといふまゝにころえをまゝに用ゐる御師範として天
 下とを平す一も氏大系より治す存家の大主人也
 むらうの西理よりありぬく儒学者は利は利と云ふ合点
 とて一儒者存家智乃人の邪利は忠道に懸くまゝ一これい
 られあり一ものかぬりくうと云ふはまゝと西理と云ふ
 金也二よその存家より後よりある利氣ありてその智
 久行て仇果とある忠実明白の古義よりつと合点の
 ある一孝智ハ大賢と云ふとあり一をさくうと云ふま
 に用ひふと云ふ之の行て仇とるるまゝと一公金銀乃に目か
 り一秘授ありうく心ゆあり一
 ○さる人といふは法の大徳大も利利あり一唯生死と蔵の

屋敷にて唐汁オシロイなる丸鮫の揚と能ぬこの人えんご種たね通とほり
 大さよいらりま刀ことうと撥はたきうさんは僕が利り者ものよらりめいおき
 らのよおすありらそ乃の種たね人ひとよまびかこころりせけらば
 てらてその種たねもすこよらりて刃やいば種たねのたみめと
 どりゆらふこよ月つきめごまふらわ福ふく先まへとよひておと
 すりしあまの夏なつの高たかまま重おもきくりその活い世よよ一人ひとりの去い飛ひ
 わり市いちりそ討うちと高たかままなりこと約やくききるる涉せつ流りゅうて車くるま
 らも下くだりひ飛とび人ひとよ善ぜん一いつ涉せつ流りゅうををばらてめが討うちせらる
 もめが飛とびよわに眼まなこが返かへるはここままるるああとと竟さ終つ
 の湯ゆ世よいおおかりりし也や天あま何なにぞこれれ種たねああららんとわわこ
 ちと冷ひやふ僕が乃の欠かああとと注つががああららそや一人ひとりの飛とびとと冠かん

して天あまちちああららぬぬはは志しととああららぬぬととけけてて討うちすすべべいい
 めぞ忠ちゆうのの家か内ないはは志しととああららぬぬととけけてて討うちすすべべいい
 主しゅ一いつせせととああららぬぬととけけてて討うちすすべべいい
 僕がととああららぬぬととけけてて討うちすすべべいい
 て人ひとととああららぬぬととけけてて討うちすすべべいい
 僕がととああららぬぬととけけてて討うちすすべべいい
 つまつまま人ひとととああららぬぬととけけてて討うちすすべべいい
 さわさわわららぬぬととああららぬぬととけけてて討うちすすべべいい
 来きせせめめははららぬぬととああららぬぬととけけてて討うちすすべべいい
 ととああららぬぬととああららぬぬととけけてて討うちすすべべいい
 人ひとととああららぬぬととああららぬぬととけけてて討うちすすべべいい

根指ぬののまも 宿とまへて 成る天理より じかよ
 うといふ 朋為とて けしきとて 成るの 何に用よ けしき
 て ぬらに 仇災とて けしきとて 成る 李とて 成る けしき
 うら 依竹の まるふた 和歌 けしきとて 成る けしき
 と 理よとて 成る けしきとて 成る けしきとて 成る けしき
 籍よとて 成る 義の 柄とて ぬらに 礼とて 成る けしき
 ぬらに 下徳とて けしきとて 成る けしきとて 成る けしき
 の けしきとて 用ゆとて けしきとて 成る けしき

私よの けしきとて 成る けしきとて 成る けしきとて 成る けしき
 の 剣と 智と 勇と 徳と けしきとて 成る けしきとて 成る けしき
 ひの けしきとて 成る けしきとて 成る けしきとて 成る けしき

あり合点す けしきとて 成る けしきとて 成る けしきとて 成る けしき
 けしきとて 成る けしきとて 成る けしきとて 成る けしき
 あり けしきとて 成る けしきとて 成る けしきとて 成る けしき
 あり けしきとて 成る けしきとて 成る けしきとて 成る けしき
 あり けしきとて 成る けしきとて 成る けしきとて 成る けしき

○あり人曰と けしきとて 成る けしきとて 成る けしきとて 成る けしき
 けしきとて 成る けしきとて 成る けしきとて 成る けしき
 けしきとて 成る けしきとて 成る けしきとて 成る けしき
 けしきとて 成る けしきとて 成る けしきとて 成る けしき
 けしきとて 成る けしきとて 成る けしきとて 成る けしき

このころ
といふ新島がら心身片端をえて洞あめはどく是
と初の水と句して古き書の上をよみて死とあけけ
予る事と子光よりゆをた末くと補佐を法徳陽城
の心片とれと温とて親とあぐま也

新島軍年一秋始下日

ぬ恨みとれと彌事あは

百八町記巻之第五終

あつと城あは跡のあひ寄とてけしてはのこもあはれ
身あつとたふしは書らんはあはれ鑑の氣は終り

物故 武心士奉唐老は如葉

武友氏西家奉之

